

No. 3

昭和42年1月1日発行
発行 富士市役所
富士市伝法南河原 3601の24
編集 市長公室秘書課

広報

1967

全世帯配布

羊

あけましておめでとうございます。
とみながまよ
いお正月をお迎えになつた
ことと思います。こしも
ぜひ健勝で、幸福ない年
でありますよう、心から祈
食いたします。



躍動

森律子


おめでとう

新らしい年のお目ざめだ
あの輝しい太陽のむこうに
なにがあるのだろう
新らしい希望に胸ふくらませ
つきない夢に心踊る

この良き年

一九六七年

この光の中に
躍む明日がある



大躍進にすべてを傾注



富士市議会議長 中村新吾

お酒は量より四十二度の純米酒
が、心から好んで頂します。
身の内、絶対黒糖一本の井として用
い、田舎十石、田舎町のこな多
くの由裡一升、田舎町合掌とらわ、世
ぞの屋代山茶の御光を照耀する。大
蔵業田耕原之松下し、ねねたどし
なり、世間熱湯の市町並の江橋力
止の帝にれど、協約事所に拂りて事務
の完結し、1券もだしたくねむせ
す。

例文は世止合せしれぬ。我が金匱
の薬局の舟を出る頃十石はそれかし
い、物語の行藏やンターリだぬと
色々難しく然其が腰袋をひらりお
す。

本來立派な書道、大概の筆調し
りねむや。しかし筆墨よりも、
其筆出世の如きは決して墨蹟を
し、極めてその一端をたどりてのじ
あらず。この點は尤も驚異的であ
る。

船は横越した船の船か。
大半なら五ヵ月遅揚港が船せりあ
す。日本船の時総数の毎の右側に
船であることは、たゞ頭をよしと音
頭を取つてゐるが、逐段市此地の積荷的
ない能力をなしては、荷物は船せり
船のものではあるが、この船は上
此地で運送を重ねて埠場へ乗じ上
るが、

市民の福祉向上に全力



富士市長 斎藤 滋与史

明るましや翁もいたわらわれます。
かえりやせよ」と、井上義士氏に
現的な大事業をねりました。由臣二世
「町の合併協議が田邊町で進行し、十
月一日をはれ田邊町に「陸十六方
」有余の人口規模を兼ねる県立熱因庄
山城郡に「第十庄」が新設されたので
あります。

もとより、この都市合併は幾多先人
の上り下りせりゆかねた努力の結晶と、
市、町議会をはじめ、団体各連盟の方
々の眞の総士誠に兼した奉仕的精神、
それを見えてほどのみなさんの懸いじ
理解とい協力とがその「事」と「人の
程」當時に、結算したものでありますし
て、いよいよもじで競争と競争を申し上
げる大歓びあります。

私は西郷を通じて田邊へ上りましたと
おり、「中野」の冠たる田邊町十のあと
、その名に詠じながら明るい歌謡とな、田
園幽雅無比な景観をねむ、趣やかな
田邊町の風景をねむる。「人の

和」を標語とした、優秀と精明な政和
幹部をもつて、地域の発展に対する福
祉向上をはかることが最大の任務と存
じ、これらは校舎併設の精神的元意を注ぐ
とともに、合併の基本方針を尊重し、
新編成組織計画を着実に実施していく
所存だおります。

教育、福祉、教育施設、福祉施設の
整備充実、又は教育用赤道球の事業、
交通等施設上より交通安全の意識
公害防止等実現する行政需要に対しても
は、頑々と努力する社企、経済の活動
を頭を通り越じ、井や先行行政の
黒崎紹介などへ努力を重ねてこられた
う心存じます。

私立吉田の復活には幾る吉田の狀
況をねれしと、原稿と直面せぬりとが
心痛らしたと存じておわせか。そ
うな細かいところは餘る如く教諭を
御願いすがゆふれど、いきなり新規
水道の母として吉田の開拓の運勢
とござります。

わ
た
し
は
ま

○……おとどけをひりじる年。おなじ年の年です。わたしは、昔から株式で忍耐強い動物として教されたが、支の八幡田、方角では鹿西、用賀は陰陽の六月としてみなさんを教へられてきました。

○……わたしがもと黒貓でしたが、今から一万年くらい前アフガニスタンの高原地で黒貓として馴れようになりました。そして古やかにギリシヤ、ローマ、ムルブト、中国インドなどはじめ皮用として、しただいに獣毛や肉用として馴われようとなりました。

○……わたしが先祖は飛鳥時代（九九年）で百歳（ぐだい）から貢物としてせらべだ一回、わざ一回、白をはじめて黒育て成功し、ようやく黒猫に普及されるようになります。またしの年間も今まで日本全国の頭、世話を一〇歳頭くらいしながにから二二、三紹介しよう。

・羊腸の小怪……歌にもあります。これはわたしの腸のようだ思へ長く曲りくねつている小怪のことです。

・羊頭をかけて狗肉を売る（羊頭奴肉の策）……これは立派な看板をして粗末なものを見るとです。

・屠苏の羊……力がなくて深く考こむ様子をうながます。

・羊首蛇皮……外面は蛇の皮をかぶつて立派だねど、内面はそれほどでもないことです。（鶴木富田謡）

耳真は十里木・田わわん牧場の
“ひりじ”

